

かな書の至宝 現代女流

かな書の至宝

洪武子記

所在地	大田区南馬込4-5-15
☎	03(3773)0123
開館時間	午前 9時～午後 4時30分 (入館は午後 4時まで)
休刊日	月曜日（休日のときは翌日）
年末年始（12/28～1/3）	特別整理期間
入館料	大人（16歳以上） 100円 小人（6歳以上） 50円 5歳以下、65歳以上無料 ご注意 駐車（輪）場はありません。

感じがします。いた木々にかこまれ、手入れが行きとどかないで来ます。先生の書とみじとに調和いたしました。はなれ、時間が止つてしまつたよつな感じたその雰囲気に、しばらくは浮世を記念室(旧書齋)には、生前先生が使用された硯、筆、墨、印、さらには原稿の下書きなど、そのままの状態で展示されています。また二階に上る階段の下には、今まで残されています。一階には、資料室があり、先生が生前に使用された多數の資料や書籍を閲覧できるようになっています。

4月3日～6月27日までの春季展では土佐日記・竹取物語・源氏物語など古典新古今和歌集・万葉集などから作家齊藤茂吉、伊藤佐平夫など、近代作家尾上柴舟先生の作品も展示されてあります。また、先生の師である川北櫻嶼、(次回は龍子記念館)です。

〔俳句〕 訳はすまじ花鳥賊皿に盛り
　　南馬込一 日 越　涼

木の葉雨浴びつゝ参る社かな
　　中馬込一 三 上一 男
　　新樹会永井淑子

一陣の風吹きくれば落葉雨
　　新樹会白岩栄子

狭まりし里芋の畠茂る葉に
　　和泉会浜崎千恵子

雑誌めぐりをり刻めぐるごと
　　和泉会八木良子

青雲の心を馳せし杜の街
　　広瀬の流れ思い出の道
　　余花の怪たどれば馬込文士村

ひとり酒しみて八十八夜かな
　　南馬込一 森岡達吾

※まめの歌の類があまり多くて省略します。

(○) 6月9日は皇太子殿下、雅子様の御結婚の日です。今回のノーナーはオーナーとしての皇室もだんだん新しく若々しくなっていて感じがします。

(○) 三月号で「梅に鶯」「竹に雀」「桜に?」と問いかけてました。数多い坂の(○) 馬込は坂の町です。今回からは田坂をとあります。

なつかから今は坂の町です。数多い坂の(○) 駒「駒ではなにかとのお教えを

いたしました。
は「駒ではなにかとのお教えを

る、中馬込の西山さんから、様に

「桜に?」と問いかけてましたとい

たました。
いいたしました。
いる坂もありますが、無名の坂も

中学に至る大きな坂も無名です。

どなたか良い名前を御提案願えな

いものでしゃうか。
その他皆様の身近な坂で、昔か

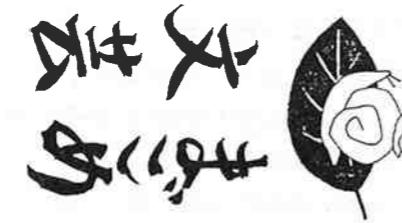
ならの呼び名とかエピソードか

などがありましたら教えて下さい。

(○) 最近芸欄へたべみの
御投稿をいたさ。
が、紙面の都合で全部掲載できな時がありますので

御了承ください。

なお御投稿くださる時は
必ず住所氏名と電話番号を
御記入ください、お願ひます。



編集後記